**隠された姫路：上下逆さまになった蝶**

それらの内の一つがどうして上下逆さまになっているのかはちょっとした謎である。2010年代に姫路城が改装されたとき、職人たちは天守閣の屋根である奇妙なものに気づいた。家紋をつけた瓦であるが、その建物にある500近くある内の1枚が、上下逆さまに設置されていたのだ。家紋は17世紀初期に天守閣を築いた君主の池田一族の揚羽蝶であった。歴史家たちは、逆さまになった家紋は、邪悪な魂に対する監視役として意図的に設置されたものだと言う。しかしそれらは普通天守閣の南東の位置に置かれていた。それは不吉な方角と考えられていたからだ。蝶の瓦は天守閣の南東側にある。ひょっとして建設者の誤りだったのでは？その瓦の意義は、あったとしても謎のまま残っている。

上下逆さまになった揚羽蝶の家紋がある屋根瓦

発見された場所

天守閣のひさしには端が丸くなった屋根瓦が482枚ある。

**蝶の瓦のもう一つの不思議**

この平たい四角の瓦は、20世紀中頃に行われた備前丸の修復の間に天守閣のすぐ下の厚い壁の内側で見つけられた。屋根にある上下逆さまの瓦のように、それは池田家の揚羽蝶の家紋が刻まれている。その瓦には4つの釘穴があるので壁につるされるよう設計されたのだろうと考え得る。しかし、これが何に使用されたか、なぜ作られたかは誰にも分からない。